

伊勢参宮に向けて ～元講の準備・心得について～

上講 = 伊勢参拝前の伊勢講を意味する。団体参拝や代参を含み参拝前に講を開き、道中の安全を祈願し旅立ちを祝う。

●伊勢参宮前日に住吉神社大明神(神功皇后)に参拝…道中の安全と健康を祈願

本殿に三宝3組を組み、海山里の産物を御供えして無事の伊勢参宮を祈る

準備：可能なら元講全員が揃って参拝

宮当番より鍵一式を借りる 洗米と塩少量 半紙3枚 水引

購入：酒1本 海山里の産物数点

方法：三宝中央にはお神酒・お水・お米・お塩、左右の三宝には海山里の産物を供える

お神酒1升も供える(酒には水引に奉納・元講と書き貼る)

当日の拝殿写真添付



※お供えした海山里の産物は元講者で適宜頂き、お神酒は元講代表宅・床に一晩祀り、伊勢参宮バスに積み込み参拝者に振る舞う。

下講=参拝の報告を兼ねて伊勢参宮の無事の帰参を祝い開く講を意味する。

講を開き購入してきた御札や名産品のお土産を皆さんに配る。

●無事帰参した後は、再度住吉神社大明神(神功皇后)に参拝…無事に帰参のお礼報告
御供えの祭壇は組まない

備考

吉井地区では、江戸時代の慶応(1865年)から明治3年(1870年)の前半に6つの講を区画して時代の波に乗って展開したものと思われる。その構成(講家の配分)を記載した書類は見つからず。

各6つの講はそれぞれ単独に計画を立て運営していた。伊勢講を開催するのは講家が順番に担当し家に招き料理と酒を接待する。経費は主催講家がすべてを負担する講もあれば、酒と牛肉を講で負担する講もあった。また、親睦を兼ねて関西各地へ旅行もしていた。現代は5年に一度の吉井地区全体で伊勢参宮をしている。

《**備忘録**》… 古文書は残っていないが、云い伝わっていると聞き

明治10年頃(1877年)頃から昭和初期(1930年頃)までは、伊勢参宮は代参も有り講家揃っての参拝も有り。

その流れは、旅の前に神主を呼び住吉神社大明神にお祈りお祓いを済ませ参拝の旅に出発。

帰参後も同じように氏神様に詣で無事の帰宅報告する。

その後、昭和10年頃(1935年頃)からは、氏神様への参拝はなくなり上講と下講に代わったようである。

1955(昭和30)年頃以降、6つの講も次々廃講し、現在は元講のみが少講家で講を開いている現状。

6講の詳細は、URL <http://www.ry-fujiwara.net> → 地域活動 →

→ お伊勢講(<http://www.ry-fujiwara.net/contents/iseko.html>)に Access してご覧下さい